

2023年度 事業報告

特定非営利活動法人相模原ボランティア協会

《概要》

2023年度は、新型コロナの感染症法上の分類が5類となり従来の規制が段階的に緩和された年でした。しかしながら夏頃を中心に感染拡大の影響もあり当協会の会員も複数名感染しましたが、種々の感染対策により協会内の集団感染は回避できたため協会活動への大きな影響は避けることができました。

理事会は市社協から阿部氏に就任していただき8人体制となりましたが、10月末で理事1名が辞任し7名体制となりました。

事業について、「ハンディキャブ事業」は運転ボランティアの減少もあって稼働状況が芳しくないこと、11号車の代替時期を迎えて買換え財源の問題を抱えています。「傾聴事業」は地域包括支援センターを中心に幅広くPRを実施しました。「講座事業」は夏講座として「障害者差別解消法を学ぶ」をテーマに障害について幅広い学習をする講座を開催し、春講座は2024年3月に傾聴活動ボランティア向けの講座を開催し80名以上と大変多くの方のご参加を頂きました。「広報委員会」は、ぼらんていあ通信の発行、見やすいホームページなど精力的に活動し、ぼらんていあ通信の発送にはさがみはら若者サポートステーションの協力を得ています。その他「DVD制作実行委員会」は活動の範囲を広げていく観点から名称を「映像企画実行委員会」に変更しました。また、近年の課題である事務局の強化や財源問題は難しい問題ではありますが、事務局員や切手グループのご努力で大過なく業務を遂行および多額の寄付を頂く結果となりました。

「交流事業」では10月の「ほかほかふれあいフェスタ2023」はコロナ禍前の規模で実施し、11月の「障害者週間キャンペーン」も2年ぶりに開催できました。5月には「市民若葉まつり」が開催されパレード・けやき会館でのバザーに参加しました。従来2月に実施していた「新春ボウリング大会」は名称を「交流ボウリング大会」に変更し6月に実施しました。12月には現在の理事・理事経験者・事務局庶務メンバーによる協会の在り方を検討する会議を立ち上げました。

以上のように事業を進めてまいりましたが、これは会員の皆様のご協力なしにはできなかったことです。ここに改めて会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

《特定非営利活動にかかわる事業報告》

1. ボランティア活動の総括

コロナ禍の中ではありましたが、ボランティア団体、市社会福祉協議会、行政との協働のもと、移送援助活動や日常生活支援などを通して障がい者、高齢者の社会参加を拡大していくことを目指しました。さらに「協会らしい」事業として住まい探しや就労支援のお手伝いも実施しました。そして事業運営円滑化のための事務局の増強、財源確保のための活動を行いました。ボランティア養成講座は感染予防対策を講じた形での実施となりました。

《ボランティア動員数》

	利用者数 (年間延人数・回数)	ボランティア (年間延人数)		備 考
		協 会 員	その他	
HC事業活動	1,088名	741名		運転ボランティア
交流事業				
・市民若葉まつり	一名	52名	一名	
・ほかほかふれあいフェスタ	1,500名	10名	180名	
(障害者週間キャンペーン)	1,000名	5名	80名	

・ボウリング大会	65名	13名	4名	
傾聴ボランティア活動	191回	391名		対象者24名、活動者26名
ボランティア養成講座	236名	26名	—	
広報活動	—	167名	75名	月刊、ホームページ、SNS
事務局	—	675名	庶務358人・HC調整業務317人(月～土)	

2. 高齢者、障がい者への援助活動

(1) ハンディキャブ運行事業

単独で外出困難な人々の支援を行うために2台の車いす対応車両と11台のセダン型車（会員の自家用車）を活用して「安心と安全を運ぶ」をモットーに延べ741回に及ぶ運行を行いました。依然として新型コロナウイルス感染の波が継続している状況を踏まえ、車内の消毒・換気、運転者・利用者に対する検温・手指消毒といった感染対策を徹底の上運行事業を継続しました。その他小中学校の「みんないいひと体験講座」にも参加をしていますが2023年度は依頼がありませんでした。

《2023年度の運行実績》

運行種類	内 容	件 数	利用者数	運転ボラ	介助ボラ
一般運行 (内セダン型運行)	通院・外出 ・買い物等	741件 (301)	1,088名 (422)	741名 (301)	0名 (0)
学校協力事業	体験学習など	0件			

[ハンディキャブ新規利用者訪問]

事務局の活動として行う新規利用者訪問はHC運行事業の基本となるもので、訪問時に「申し込みのキッカケ」を聞き、身体状況の把握、利用の必要性、利用の目的などを把握して、利用会員入会申込を受付けます。

2023年度は運転手不足、利用希望が特定の日に重なるなど運行調整が難しくなり、4月に保留としていた3名を受け入れた後、新規利用者受け入れを中止とし、課題が解決しないまま年度末まで継続する事となりました。

2024年3月1日現在の利用会員総数は53名となっています。

・新規利用者訪問実施状況

※2023年度分は2022年度の保留分

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
申 込	19	12	25	33	2
訪 問	14	5	5	23	2
訪問者延人数	28	5	10	44	4
入 会	13	5	5	17	3

(2) ボランティア団体とのネットワークづくりと交流事業の開催

ボランティア団体とのネットワークづくりについては、ぼらんていあ通信でボランティア団体を紹介する記事を掲載しました。

市民若葉まつり、ボウリング大会、ほかほかふれあいフェスタについて新型コロナウイルス感染前に近い形で開催することができました。

(イ) 市民若葉まつり

パレードとけやき会館での福祉バザーに参加しました。

(ロ) ほかほかふれあいフェスタの開催

障がい者、ボランティア、市民との交流を目的とする「ほかほかふれあいフェスタ2023」は、10月21日に開催しました。

11月25日には障害者週間にちなんで、サンデッキ相模大野で障がい福祉に関する市民の関心と理解を得るためのイベントを開催しました。

(ハ) 障がい児者とのボウリング大会

毎年2月に実施していた障がい児者との新春ボウリング大会を新型コロナの感染状況に鑑み「交流ボウリング大会」と名称を変更して6月17日（土）に開催しました。

(3) 傾聴活動

当協会は、2014年度から居宅訪問型の傾聴ボランティア活動を開始し、10年目となりました。当初企画した原則、すなわち、外出も少なく、人と話す機会が極度に少なく孤立し、孤独になりがちな方を対象とし、原則月1回1時間程度、2人で訪問しお話を聴くというのを続けています。傾聴ボランティア活動は介護保険制度にはないものです。利用の問い合わせは各地域の包括支援センター、市社協ボランティアセンターや居宅介護事業所ケアマネージャーからが主ですが、時に利用者様のご家族が探し出して連絡をいただくこともあります。

新型コロナの5類移行後、活動のPRと、チラシを各所に配布しましたが、急激な利用増とまではいかず、少しずつの増加となっています。2023年度は、191回の傾聴活動を計画し、実利用者は24名でした。直近5年間の傾聴活動の推移は次の通りです。

《直近5年間の傾聴活動の推移》

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
活動件数	222	127	206	181	191
実利用者数	23	19	24	21	24
実活動者数	32	26	28	30	26
延べ活動者数	433	266	420	370	391
直前中止件数	36	24	26	25	33

(4) 就労困難な方々への社会参加の機会づくり

NPO法人文化学習協同ネットワークが運営している「さがみはら若者サポートステーション」に対する支援・協力の一環として同組織を利用している若者が来所し、当協会が発行している「ぼらんていあ通信」の発送業務（発行物の四つ折り、封入、切手貼り等）を発送ボランティアと一緒にしています。作業を通して気軽に会話を交わすことで、職場での対人関係の育成訓練に寄与する事を目的としています。2023年度は延べ人数70名の参加がありました。

なお、2023年度は、10月21日に開催の「ほかほかふれあいフェスタ2023」に際して同フェスタのポスター制作および当日はボランティアとして7名にお手伝いをいただき、11月25日の障害者週間キャンペーンには3名が参加し写真撮影をお手伝いいただきました。

注) さがみはら若者サポートステーションとは：

通称「さがみはらサポステ」と言い働くことを中心に自立を目指す若者の“新しい自分づくり”と“しごと探し”を応援している組織

(5) 家具転倒防止のための援助活動

高齢者や障がい者を対象に家具転倒防止のための援助活動を相模原災害ボランティアネットワーク

(SSVN)と協働実施しています。

2023年度は2件の相談があり、1件実施済み、他の1件及び前年度からの継続案件1件は対応策を説明して完了しました。

この活動は市危機管理課が作成している自治会向けのチラシにボランティア協会の活動として紹介されています。

(6) 住まい探しのための援助活動

相模原市の高齢者等住まい探しの相談事業の窓口である公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会(まち協)からの要請による「住まい探しサポーター」として当協会の正会員を派遣しています。

2023年度、相談会は6回開催され、延べ12名を派遣しました。

なお、2020年度に設立された相模原市居住支援協議会に当協会も役員として参加しています。

3. ボランティア養成に関する活動

今年度の夏は、以下のタイトルで講座を開催しました。

<あなたは大丈夫？障がい者を知らない間に差別していませんか！？> ～障害者差別解消法を知るための入門講座～

講師：桜美林大学准教授 谷内孝行先生

開催日：2023年7月22日(土)午後

開催場所：あじさい会館6階展示室

受講対象者：障害者差別解消法に関心をお持ちの方

参加者数：一般の参加合計20名、講座検討委員6名、先生の他に講師陣5名、事務局関係者7名

谷口先生の講義はわかりやすく大変よかったですようです。受講者アンケートの自由記述感想も多く書かれており、受講生の反応もよかったですようです。

また、春には傾聴講座を実施しました。

<傾聴ボランティア養成講座>

講師：田園調布学園大学名誉教授 荒木千根子先生

開催日：2024年3月12日、19日、26日(火)午後、3回シリーズ

開催場所：あじさい会館6階展示室

受講対象者：傾聴ボランティア活動に関心のある方

参加者数：一般の参加者は3回合計延べ216名

受講者のうち、11名が協会に入会し、活動体験、活動者へと移行する見込みです。

傾聴講座への申し込み者数はこのところ安定して多くなっており、これらの受講者が実活動に結びついていくようリードしていきたい。

4. 情報発信に係わる事業

協会の活動を皆さまにお伝えするために、広報誌「ぼらんていあ通信」を毎月発行しています。また、ホームページ、Facebook、インスタグラムなどSNSでの発信にも力を入れていて幅広い方々に情報をお伝えしています。

(1) ぼらんていあ通信

「ぼらんていあ通信」は1981年以来、毎月かかさず発行していて、2024年3月で通巻508号となりました。協会や会員の活動報告、クイズやイラストなどに加え、市内で活動しているボランティアが

ループなどを取材し、協会や会員にとってもステップアップにつながる情報を提供させていただいています。会員を始め、市内の学校や公民館、福祉施設などの公共機関、またボランティア団体やメディアなどに配布していて、封入作業などは、さがみはら若者サポートステーションの皆さまにお手伝いいただいています。

(2) ネットワークを利用した発信

協会のホームページは、協会会員がスキルアップを重ね、2021年からは会員の手でホームページを運営しています。イベントのご案内や報告などを、会員を始め多くの皆さまにお届けしています。また、2021年12月には相模原市SDGsパートナーに参加しました。ホームページでは、SDGsに対する協会の取り組みなども詳しくお伝えしています。

相模原市民が自由に利用できるポータルサイト“さがポ”にも、協会のホームページを開設していて、情報発信に努めています。

Facebookは、近年SNSでの情報発信の需要に呼応し、2021年9月に開設しました。情報誌「ぼらんていあ通信」や、イベント情報、ボランティア募集など協会の活動を広く伝えられるようタイムリーな情報発信を行っています。

2023年2月にはInstagramも開設し、若者の読者を広げるべく情報活動に努めています。FacebookもInstagramもホームページにリンクを貼っていますのでご覧ください。

(3) 動画作品制作の活動

協会活動やボランティア仲間の紹介、市内の活動団体の紹介動画などを、市社会福祉協議会や関係する団体との協働で制作し、広く市民の皆様にお知らせすべくオリジナルの動画制作活動を行っています。

5. 外部会議等への参加

当協会は、相模原市の社会福祉審議会、精神保健福祉審議会、地域福祉推進協議会、福祉のまちづくり推進協議会、防災市民会議、居住支援協議会、また市社会福祉協議会のボランティア・市民活動団体部会の委員を委嘱され派遣しています。さらに社会福祉事業団の監事も委嘱されています。

また、相模原災害ボランティアネットワーク（SSVN）の運営委員として、SSVNの運営に係わっています。

6. その他の事業

(1) 法人運営、HC調整のための活動

法人運営と日常の連絡調整を行うための事務局についてはあじさい連絡所で運営しています。事務局員や事務局サポーターの大きな協力のもと推進してきましたが、組織に必要な配置が十分できておらず、より一層の強化が必要です。

また、市社会福祉協議会の中央ボランティアセンターとの連携を取りながら円滑な運営に努めています。事務局運営体制の整備、役割分担については、依然として継続課題となっています。

(2) 活動財源確保のための活動

会員の皆様には認定NPO法人制度を利用した寄付促進の説明をぼらんていあ通信に掲載しました。また、イオングループの「幸せの黄色いレシートキャンペーン」へ参加しています。

(3) 新規正会員勧誘の活動

ボランティア養成講座の最終日に協会の説明および申込み窓口を開設し、新規会員の獲得推進を行います。

した。

当協会のホームページ、市民活動サポートセンターの紹介資料にも会員募集を掲載しています。

《直近5年間の正会員数推移》

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
正会員数	115名	110名	110名	115名	111名
当年度入会者数	15名	4名	4名	15名	5名
前年度退会者数	16名	9名	4名	10名	9名